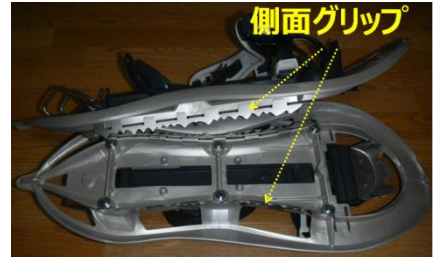


蔵王：蔵王山

- ◆日程 2022年2月19日(土)
- ◆メンバー L:OT
- ◆天候 曇

スノーシューを使う機会を狙っていた。購入した2年前、登山口直前で膝蓋骨骨折。翌シーズンは緊急事態宣言。今シーズンに備え、新たにグリップを追加した(写真)。同モデルを持つSDさんによれば、自分のスノーシューは側面のグリップが付いておらず横滑りし易いと聞いたためだ。デビュー戦は蔵王に定めた。1月は寒波が次々押し寄せ樹氷は十分に発達しているはずだが、3月になれば縮んでしまう。今週末は荒天の狭間で絶好の機会と判断、夜行バス利用0泊3日の遠征を計画した。装備はスノーシューとストックがあれば十分だが、万が一に備えてテントとシュラフ以外の雪山縦走装備一式を持った。そう、重荷を背負う雪トレも兼ねるのだ。



始発のロープウェイを乗り継ぎ、山頂駅へ。早速スノーシューを装着して地蔵岳に向けて登高を開始。新雪をラッセルして進むが、ワカンとは違う浮力に感心。横滑り感もない。軽装なアイゼン歩行パーティーを追い抜いて快調に進む。地蔵岳山頂からは月山、鳥海山など山形北部の山が見える。続く熊野岳へは柱標の無い緩斜面に自由に踏み跡をつけながら登る。山頂では熊野神社が見当たらない、恐らく巨大な樹氷状の塊がそうだ。ここからは南は安達太良山に始まり、吾妻連峰、飯豊連峰、朝日連峰まで、雪原を挟んで一望だ。馬の背に移動する途中でお釜が見下ろせた。真っ白すぎて氷結している湖面の輪郭が分からない。刈田岳山頂では打って変わって大賑わい。ライザスキー場から近いからだ。山形出身の会社後輩によれば樹氷原と言えるのは風の強いライザからのルートにだけあるとのこと。そこで、ライザ方向へ下ってみる。エコーライン(道路)を示す標識を目印に脇に逸れるとトレースがなく周囲は巨大な白い塊。もはや樹の面影はない。憧れの白い飯豊を背景にした景色を独り占めしながらランチ。帰途、出会った地元の人によればこの時期に風もなく遠くが見えるのは幸運とのこと。熊野岳付近ではガスでルートが見難くなったが、コンパスと僅かなトレースを頼りに柱標のある地蔵岳へのルートへ復帰。スノーシューの練習と抜群の景色を満喫する山行を終えた。



温泉の後はジンギスカンがお勧めだと後輩。山形に住む学生時代の先輩夫婦と合流して食べるようになった。後輩に勧められたお店は人気で満席のため、麓にある元祖だという店に入った。癖が無く実に旨い。蔵王と言えばジンギスカンで間違いはない。(記:OT)

CT: ロープウェイ地蔵岳山頂駅 9:25 - 地蔵岳 9:45 - 熊野岳 10:25 - 刈田岳
11:20/11:40 - ライザ上の樹氷原 12:15/13:00 - 熊野岳 14:35 - 山頂駅 15:20